

令和6年 飯田市教育委員会 6月定例会 会議録

令和6年6月13日（木） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼総務係長	松下 弘毅

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは、令和6年飯田市教育委員会、6月の定例会を始めます。

日程第1、「開会」。

これより本日の会議を開きます。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程第2、「会期の決定」。

それでは会期の決定を議題といたします。

今定例会の会期につきましては、本日6月13日の1日間といたします。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、本定例会の会期は、本日6月13日の1日間に決定いたしました。

次の日程に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第3、「会議録署名委員の指名」。

会議録署名委員として野澤稔弘委員を指名いたします。

◇教育委員（野澤稔弘） はい。

○教育長（熊谷邦千加） よろしくをお願いします。

次の日程に進みます。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第4、「会議録の承認」。

5月の定例会の会議録につきまして承認を求めます。このことにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、5月定例会の会議録は承認されました。

次の日程に進みます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第5、「教育長報告事項」。

別紙の資料をご覧くださいと思います。

ちょっと数枚にわたっておりますが、1枚目で学校訪問を4月23日の下久堅小学校からスタートいたしまして、全て28校を5月24日、高陵中学校をもって終了いたしました。

それぞれの教室に、小学校に行きますと担任の先生がほとんどですが、中学校に行きますと教科担任の先生、子どもたちが一生懸命学習に取り組んでいる姿を拝見しました。子どもたち楽しげに学んでいるとか、あるいは子どもたちのつぶやきが言いやすい雰囲気であるとか、そういうところは非常に安心をしました。

最終日に、座光寺小学校では、全校図工授業が行われていまして、学年ごとに、例えば一年生はペットボトルキャップを集めてきて、昇降口でそのペットボトルキャップを使って自分で好きなものを作っていました。五年生は10センチ四方くらいの色の紙を自分で選んで持ってきて、体育館でそれを並べて造形遊びみたいに、デザインをしていました。そんなように、学年によって一年生はペットボトルだけど、二年生は新聞紙、三年生は段ボール、四年生は牛乳パック、五年生は色紙、六年生はストローというふうに、広いスペースを使って自由に造形遊びをするという授業が大変興味深く見てまいりました。特に、興味深いなと思ったのは、先生は環境・材料を用意するだけですね。あとは子どもたちがやりたいようにやっているの、子どもたち一人一人が学んでいくというか、自分のやりたいことに集中できている。そういう姿を多く見るのができたなあと、それが印象的でありました。

先生方はその様子を見ながらつまずいたり、何かを聞かれたりすればそれに答えたり、頑張っているところに声がけをしたりとか、そんな授業をされていました。先生方もいい勉強になったし、子どもたちにとってもいい時間になったんじゃないかなというようなことを感じました。これ毎回やっているわけではないので、たまたまそういうときに見させてもらって良かったと思っております。

それから2つ目は、市議会の一般質問が、先月の28日の火曜日と水曜日に行われました。

概要につきましては、そこにありますので全てきちんと細かい記録ではありませんので、略したりしておりますがご容赦ください。ご質問いただいたのは、住み続けたい生活環境、文化・スポーツ環境の整備のこと。それから子どもたちの運動能力・体力向上のこと。それからコロナ禍における行政の対応の記録のこと。それからPTA活動のこと。さらにはAI時代の読解力ということで、飯田市が取り組んでいる基礎的な読解力の向上に向けて

の内容でございました。

それから、美術博物館を取り巻く環境、飯田文化会館の役割と新文化会館の整備、歴史研究所の状況というようなことで、特に創造館の団体の皆さん方、どういうふうに今後なっていくのかというようなことでご質問いただいたり、歴史研究所の収蔵の関係の課題等についてご質問等をいただきました。

それから最後に、小中学校の教育環境の充実っていいものは、学園構想の進捗状況についての確認ということでご質問をいただきました。詳しくは、後のほうをご覧くださいければと思います。

そして長期欠席児童生徒支援ネットワーク会議が6月5日に行われました。不登校の子どもたちの体験学習ということに協力していいよとおっしゃっていただいた団体、事業所、それから保護者会の代表も今回初めてご参加をいただきました。それからさらに自由席という形で各小中学校の管理職の皆さん、あるいは不登校担当の教員の皆さんもお声掛けをして、まずこういうフリースクール・団体があるんだよということの紹介を聞いていただいて、少しでも活用していただければ、あるいは連携ができればということで行いました。

そういう中でご意見ご質問が出たのは、「不登校の理由は何であるのか」ということ。あるいは「どうしたら学校が楽しいところになるのか」と。あるいは「発達障がいの子たちにとっては、学校がインクルーシブになってないんじゃないか」というようなご意見。あるいは「いろんな情報が十分に届いていない」こと。また、「こういう機会も含めていろんな機会です学校だけではなくていろんな機関、フリースクール等との連携が大事だ」というようなご意見をいただきました。人数も増えましたけども、その連携の必要性和た課題も感じる事ができたなというふうに思ったところでございます。

以上、私からの報告は、そこに示したとおりでございますが、何かご質問等ございましたら。よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) はい、では次の日程に進みます。

日程第6 議案審議(3件)

○教育長(熊谷邦千加) 日程の第6、「議案審議」。

本日は3件ございますが、これから議案審議に入りたいと思います。

議案第47号 令和6年度飯田市就学援助費支給対象者(要保護及び準要保護児童生徒援助費補

助金関係)の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第 47 号、「令和 6 年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」を議題といたします。

議案の説明を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは、議案第 47 号、令和 6 年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、3 ページをお願いいたします。

認定対象者につきましては、お手元にございます別冊でご用意をいたしましたとおりでございます。

それぞれ記載をいたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第 5 条第 1 項の規定により、飯田市就学援助費の支給対象者として認定をしていただきますよう、ご提案を申し上げます。

私からの説明は以上になります。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 頷いておりますが、質疑なしと認めます。

ご異議はございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

これより議案第 47 号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 47 号は、原案のとおり認定をされました。

議案第 48 号 長野県教育委員会と飯田市教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の 取り交わしについて

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして議案第 48 号、「長野県教育委員会と飯田市教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の取り交わしについて」を議題といたします。

議案の説明を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは4ページからお願いをいたします。

議案第48号、長野県教育委員会と飯田市教育委員会相互の任免及び人事等に関する了解事項の取り交わしについてでございます。

こちらは、長野県教育委員会と飯田市教育委員会において例年この時期に取り交わしをしているものでございまして、内容につきましては、昨年度と同様に5ページにございます了解事項により、6ページ以降にあります覚書を取り交わしたいとするものでございます。

了解事項の趣旨でございますが、県の教育委員会と市の教育委員会が全県的視野に立って教育行政の適正かつ円滑な運営を図ることを目的に、教職員の任免、その他の進退等に関して覚書を交わすということが、この了解事項の主な趣旨でございます。

おめくりいただきまして6ページの覚書をお願いいたします。こちらにつきましては、記載の内容につきましては、昨年度と変更点はございません。

他県と違う特徴的な部分のみご説明を申し上げます。

1の「教職員の人事について」の（4）です。「教員について」、それと「ア、教員の人事についてはこれを校長に立案させることが望ましい」という部分でございます。長野県の場合には、校長会の中で人事を担当していくということが例年行われているということで、ここに覚書に記載がされております。

その他につきましては、ご確認をお願いしたいと思います。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまご説明をいただきました。

質疑はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑なしと認めます。

ご異議はございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

これより議案第48号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第 48 号は、原案のとおり決定をされました。

議案第 49 号 飯田市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして議案第 49 号、「飯田市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について」を議題といたします。

議案の説明を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは議案第 49 号、飯田市教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定についてでございます。

提案理由といたしましては、9 ページに記載をしておりますが、現在、学校教育課事務用として使用している電子印でございますが、自治体の D X、それから業務の効率化を図るということを進めていくために、学校教育課以外の必要な他課、具体的にそちらに記載をしております生涯学習・スポーツ課、文化財保護活用課で、この電子公印が使用できるように、規則の一部を改正するものでございます。

8 ページの中ほどになりますが、「教育委員会公印規則の一部を次のように改正する」と。「別表第 3（第 10 条関係）」とありますが、規則の第 10 条第 4 項には「電子印として使用する公印の印影の名称、書体、寸法、使用区分及び保管者は別表第 3 のとおりとし」、定めてございます。その別表第 3 中の「学校教育課事務用」を、下の表にありますが、「学校教育課事務用、生涯学習・スポーツ課事務用、文化財保護活用課事務用」に改めるものでございます。

次のページへお移りいただきまして、附則ですが、公布の日から施行すると、以上のよう

に制定をしたいものでございます。

説明は以上になります。よろしくお願いいたします

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑なしと認めます。

ご異議はございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

これより議案第 49 号を採決いたします。

お諮りいたします。

本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) ご異議なしと認めます。

よって、議案第49号は、原案のとおり決定されました。

次の日程に進みます。

日程第7 協議事項

○教育長(熊谷邦千加) 日程第7「協議事項」。本日は、協議事項はございません。

次の日程に進みます。

日程第8 陳情審議

○教育長(熊谷邦千加) 日程第8、「陳情審議」。本日は、陳情審議はございません。

次の日程に進みます。

日程第9 その他

○教育長(熊谷邦千加) 日程の第9、「その他」。

(1) 教育委員報告事項

○教育長(熊谷邦千加) (1)「教育委員報告事項」。

教育長職務代理者、教育委員の皆様方からご報告がありましたらお願いをいたします。

では、三浦委員からでいいですか。

◇教育委員(三浦弥生) 教育長から先ほどお話がありました、小中連携・一貫教育推進委員会に出席をさせていただいております。

印象に残っていることといたしますと、PTAの代表の委員さんからのお話がありまして、「子どもたちが地域のことが好きで人懐っこいという話がある反面、人間関係づくりが苦手といった課題が上がってきているし、学力や不登校という問題があるけれども、そういった課題ではなく、またキャリア教育というところに視点を置いているといったところが、どういったことなのでしょう。不思議です」というような、そんなご質問といたしますか、ご意見があったかなと思います。それを私も「あっそうだな」と思いながら、それを受け

てのお話の中に、「やはり不登校であるとか、学力差っていうのは課題になっているけれど、キャリア教育にそれを結びついていこうとしているんですよね」なんていう受け手の発言があって、「ああ、そうか」と私も聞いておりましたが、井出先生から、「やっぱり生き方と離れたキャリア教育というものはないじゃないですか」なんていうお話をいただきますと目から鱗じゃないですが、「あっ確かにそうだったな」とそんなようなことも感じました。

ですので、本当、キャリア教育っていうものがやはり生き方というところを子どもたちに伝えていくという、そういったやっぱり生きたものなんだっていうところは、そのときに感じたというところですよ。

実は、私の職場というか、短大でキャリアデザインという科目がありまして、地域の社長さんたちが来てお話をいただくと、そんなこともあります。その社長さんの中にここにいらっしゃる野澤委員に来ていただきまして、うちの学生たちに話をさせていただきました。

企業説明ということではなくて、本当に生き方、どんな生き方をされてきたかといった話を本当に若い世代の学生にさせていただくと、学生からの素直な感想があったり、または野澤社長さんに私の今思っていることを質問したいんだっていうことで、私がちょっとメモを預かったりと、そんなことがありまして、そのときに思ったのは、本当に身近にそういった憧れることのできる大人の姿があるっていったところ、そういったものが、やはりキャリア教育、キャリアデザインというものなのかな、なんていうふうに感じるということです。

ですので、先ほども長期欠席児童生活支援ネットワークといったところで、また職場体験といったところ、そういった子どもさんたちというお話なので、そういうふうに思いましても、そういった子どもたちにとっても、それって支援を受けるというよりは、それが一つのキャリア教育、その子たちにとってのキャリア教育の一つなんだろうなっていうような、そんなところを感じます。

そういった小中連携・一貫教育もそうですし、自分の身の回りであることも改めて考え直してみますと、やはりそういう環境があってこそ、やはり子どもたちに良いキャリア教育といったものができるんだなってことをちょっと考えさせられた、そんなような感想です。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加）　ありがとうございました。

さらにいかがですか。

◇教育委員（野澤稔弘） というわけで、先生の真似事をさせていただきました。

反応を見たり感想文とかをいただいて、私はただ単に自分がこうやって生きてきたって
いうだけの話をしただけなんですけども、本当に先生ってすごいなと思います。

ものすごい反応が返ってきて、20 歳前後の人たちだったので、もうそんなに大人の話な
んか聞かないだろうなと思っていたんですよ。そしたら結構ちゃんと反応したので、び
っくりして、こういうことを毎日先生方が繰り返しているんだと思って、本当に頭の下が
る思いで、身の縮む思いで帰ってまいりました。

ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） 聞いてみたかったですね。

◇教育委員（三浦弥生） 聞いていただきたかったです。

○教育長（熊谷邦千加） また、何かの機会に。

◇教育委員（野澤稔弘） 止めましょう。

○教育長（熊谷邦千加） もしかしたら普段この会議でお聞きしているかもしれないですね。

さらにございますか。

林委員さん、お願いいたします。

◇教育委員（林 綾子） 皆さんご覧になっていないと思うので、こういうのが来ましたよとい
うご報告です。今、「これからの学校のあり方審議会」ということで、この方針のパブリッ
クコメントをしますというふうに既にお伺いしておりましたけれども、私の手元にも、今
年から導入されたアプリ、連絡ツールを通じまして、この方針案というものを、学校から
送っていただきました。

それで、クリックするとちゃんと全文が見られるようになっておりまして、各学校、多
分そういった形で公表していただいて、また、この意見の書き方みたいなワードもちゃん
とついていましたので、紙でいただいてももちろん見ていただく方はいただけると思うん
ですが、そういった形で今アプリで見られるようになっていますので、より多くの方に関心
を持っていただて、保護者の方とか、まだ自分ごとになっていない方もたくさんいらっし
やるかなと思いますが、たくさんの方に見ていただけるように、アプリを通じてお知らせ
いただいてありがたかったかなというふうに感じました。

もう一つ、これは個人的にというか子どもの参観日に行った際に、飯田東中学校で「U
P するタイム」というのがあるんですが、これが多分スリンプルプログラムっていうものを
そういうような名称でやっているんですが、それを紹介していただいた件についてです。
参観でも子供達の活動の様子を見せていただいたのですが、懇談の際に担任の先生が「と

でも素敵な取組ですので、保護者の皆さんもやってみませんか」ということでやり方を教えていただきました。挑戦しようかなと思ったところで時間が来てしまったので、残念ながら実際には行っていないんですけれども、こういうふうにやるんですよっていうことを教えていただいて。とても子ども同士の理解に役立ちそうだな、ということを実感させてもらいました。また、保護者もお話を一方的に聞くことは多くても人とのコミュニケーションっていうのが、やっぱりなかなか出来ていないというか、保護者なんかもそういったプログラムを通じてお互いコミュニケーションを取れるとPTA活動ですとか、いろんな面でいいなっていうのをちょっとお話聞いて感じました。

子どもたちも週一回そういった活動をしているということで、先ほど三浦委員も言っていましたけど、コミュニケーションっていうことがとてもこの間の小中連携のときにも話題として出ていましたので、子どもたちのコミュニケーション能力っていうので、こういうのをますます生かしていけばいいなというふうに、私自身も感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それでは、北澤職務代理をお願いします。

○教育長職務代理者（北澤正光） 2点あります。

1点は、5月31日ですけれど、今までの委員さんの話とつながりますが、キャリア教育推進委員会の第1回目があって出させてもらいました。

皆さんもご承知のように、保育園、小学校、中学校、高校、大学・専門学校を全て通じて、キャリア教育を進めていくという、この飯田型の取組を、今年も各分野で大事にしてやっていきたいと思いますという確認がされて、特に中学校ではコロナ禍後の職場体験の受け入れ職場は今年234という報告がありました。たくさんの事業所で受け入れを表明してくださっているといった話とか、さっきも野澤委員さんの話にありましたが、不登校等のお子さんを受け入れますと言っている事業所も100を超えるといった話もありました。改めて、これから進んでいく学園構想の中核になる取組の一つのキャリア教育ということで、今の小学校・中学校・高校、大学や専門学校もかなり大事に進めて始めていると思います。地域理解ということと、社会参画というのが動きとして具体的にそれぞれのところで始まっているなということを思って、今年も最後にはキャリアフォーラム等でその発表等があると思うんですけれど、発表のためのキャリア教育というよりも、本当に子どもたちの生きる力を育てていくためのキャリア教育となるように、進めていってもらいたいと思いました。

それからもう1点は、6月3日に下伊那教育七団体というものの発足会があって、そちらへ参加をしてきました。

昨年までは4点、重点項目を絞り出して、県にお願いをするということをしているわけですが、去年までの反省で陳情時間60分の中で4点をお願いするのはなかなか言葉足らずになって厳しいということで、今年はさらに3点に絞り込んで重点的にお願いに行ってくるというような確認がされました。1点目は、飯田下伊那の教員不足の解消に向けてのこと。2点目は、山間地校並びに小規模校における教育水準の向上のための条件整備。具体的には県内のへき地校の44.7%が飯田下伊那にあるということで、その小規模校の豊かな教育を支えるための、例えば複式の指導に関わる改善策等について、下伊那ならではの発信ができるようなことを、ぜひ県にもお願いをしていきたいということで、去年までは山間地の小規模校という枠組みで重点的にやっていたのですが、飯田市であっても小規模校で、千代小とか千栄小とか複式が待ったなしに始まっている状況がある。今年からは山間地に限らないで、要は小規模校であればその範疇に入れるということで確認がされて、県にお願いをする事になっています。

それから3点目は、特別支援教育のさらなる向上ということで、具体的にはLD等の通級指導教室をさらに充実して増やしてほしいということとか、教員の研修の機会をさらに充実させていきたいとか、飯田養護学校が現在、校舎改築中ですが、非常に手狭な場所で工事をしていて、駐車場等の工事をしているすぐそばを子どもたちが通らなければならないというような状況があるそうで、その安全確保等について、県にただしてくるといったようなことが、重点の中身ということで確認がされています。

今後さらに詰めをして、熊谷教育長が飯田下伊那の会長にもなっているので、最後の陳情のところは行って締めてきてくれると思います。

以上、報告です。

○教育長（熊谷邦千加） すみません、私はその会議、今年は出られなかったのですが、毎年出られないんですけど、いつも出られないときに設定されていて。

また、そういう陳情を議員さんたちと一緒に県にお願いしてくるという形で。10月頃ですかね。

○教育長職務代理者（北澤正光） そうですね。

○教育長（熊谷邦千加） またあると思います。

今、報告いただきましたけれど、何かご質問等ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） また、アプリを通じて保護者の皆さんの声とか何かあったら、また教えていただければと思います。

ありがとうございました。

では、次へ進めたいと思います。

（２）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 教育次長から報告がございましたら、お願いいたします。

◎教育次長（秦野高彦） ごさいません。

（３）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、（３）「学校教育課関係の報告事項」。飯田市これからの学校のあり方審議会についての報告を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは、学校教育課関係の報告事項ということで、飯田市これからの学校のあり方審議会について、ご報告を申し上げます。

まず、前回５月１６日の定例会以降、後ほどご説明させていただきますが、あり方の見直しの第１次（案）につきましては、５月２９日の審議会にてご意見をいただき、早急なご対応ではございましたが、用語集を３ページに追加をするなど、反映させたものを、それぞれ教育委員の皆様方にお送りをし、お忙しい中、書面での表決にてご確認ご承認をいただき、誠に申し訳ありませんでした。

委員の皆様方から書面表決をいただく中で、さらに若干変更させていただいているところが３点ございますので、まずはそちらからご説明を申し上げます。

資料№１ですが、おめくりをいただきまして、ページが２つ振られておりますが、下の太文字のページで４ページ目です。（４）の地域の担い手や支え手の減少への危惧というところの「人材」の「材」の字の、以前は財産の「財」になっておりましたけれども、ご意見をいただき材料の「材」へ変更しております。下から７行目、それから下から６行目にもございます。また、５ページ目の上にも出てまいりますので、「材」の字へ変更しております。

また、２点目ですが、その５ページ目の下から２行目に「小中学校の学習指導要領が改訂され」とあります。この文章につきましては、「よりもう少し分かりやすい表現に」というご意見をいただきましたので、このように記載のとおりに分かりやすく記載をしております。

ます。内容は全く変更はございません。

それからおめくりいただきまして、17 ページの1次方針案を1枚にした概要をまとめたものでございます。こちらの左下のところですが、「コミュニティスクールの仕組みを活かして、飯田のキャリア教育を軸に据えた9年間の教育を一貫性を高めていく」というところを分かりやすく、こういうようなスパイラルと言いますか分かりやすく図で入れたというところが、先日、書面表決をいただいてから若干の修正をさせていただいたものでございます。

こちらの案にて、先週の6月3日から7月2日までの日程でパブリックコメントを行っておりますし、また、昨日先ほど林委員さんからご報告いただいておりますが、全校の保護者へは、「t e t o r u」という学校保護者連絡ツール、今年度から導入をしました連絡ツールにてお知らせをしております。そちらにつきましては、早速、昨日配信をいたしました。既に2件ご意見をいただいておりますという状況でございます。

また、来週の6月18日から7月9日まで、各20地区の地域協議会へ諮問をし、またご意見をいただくことになっております。

それではかいつまんで、先日5月29日に行われました審議会の内容について、時間の関係もありますので、雑駁ではございますがご説明をさせていただきます。

そちらに関しては、特にほかにも資料をご用意しておりませんが、29日に行った審議会の内容としましては、方向と説明事項としては、令和6年度の第1回までの審議会の振り返りということで、委員さんが今年度になって3人が変わって最初の審議会ということで、合計7回行われておる審議会までの振り返りを含めて行いました。

それから審議事項でございますが、先ほどの第1次の方針案について、それから児童生徒数・学級数の推移と施設の状況について、学校の適正規模についてということ審議いたしました。

先ほどあり方に対する方針に関しては、「先行自治体における評価について、学力に関する評価はあるが、コミュニティスクールに関する評価はあるのか」というご意見をいただいたり、また、「先行自治体の評価は良いことを記載しておりますが、課題もあるように思う」と。「地域の協力が学校に必要なというのはそのとおりなんだけれども、地域も非常に高齢化が進んでいる中でどうやって学校を支えていくかは現実的な課題となる」というご意見もいただいております。また、「飯田コミュニティスクールは、公民館がコーディネーターを務めるところが特徴であるが、学園構想が始まってくると公民館の関わりも増加するのではないか。そういうことを考えたときに、コミュニティスクールが地域に十分浸透

しきれていないという状況があるのではないか」。また、「学校支援の組織化が定着していない、あるいは学校運営協議会が以前の学校評議委員会と同じような内容になっているのではないか」というご意見がありました。

また、「丸山小や龍江小学校の通学区の課題、それから小中一貫教育をもっと打ち出したときの学園の中の小学校の通学区をどう考えるかという、そういった視点から検討が必要ではないか」ということもご意見として出ております。また、「保護者としては学園構想を知ったのはごく最近で、どのように広報をしていくのか」ということも出されております。

また、「方針案の中にあるキャリア教育やコミュニティスクールなど言葉に疎い方もいる」と。「聞いたことがない人でも分かるような説明が必要ではないか」というご意見もいただいておりますので、用語集ですとか図を入れたという経過でございます。

また、もう一つの審議内容の児童生徒数の推移と学校施設の状況、あるいは学校の適正規模について、こちらにつきましては、本日の先ほどの資料No.1の19ページから30ページの資料のお示しをし、説明を行いました。こちらに関しては、現在の学校数を維持したまま修繕改築をしていくと教育関連事業の実施に多大な影響を及ぼすというところに関してのご意見、予算的な部分も含めてご意見をいただいたり、また、「中学校の学級数で見ると令和5年と令和12年ではさほど変わらないように見えるけれども、その中の児童生徒数はどうなっているのか」と。「子どもの実数を資料として示していただけるとより具体性が出るのでは」というご意見をいただきました。また、「少人数学級のほうが指導は行き渡るといえるのか」というご指摘もある」と。「それぞれ地域ごとに議論が必要ではないか」ということもご意見として出されております。

主な内容が第1次方針案でしたので、今後7月に計画をしております次の委員会には今後の児童生徒数の推移、それから学校施設の状況、適正規模というところに関しては、次に、もう少し議論を深めてまいればと考えております。

それから、今後も学校の教職員の皆さんはもちろんですが、地域、それからPTAの皆さんに働きかけながら、先ほどの「t e t o r u」の反応がもう1件あったことをご報告をさせていただきますと、保育園の保護者からでした。多分、上の子どもさんが小学生、下は保育園で保護者会長さんが保育園の役員をされている方なんです、私のところへご連絡をいただきまして、「保育園の保護者会でもぜひゆくゆく関わっていく部分なので、ぜひ保護者会でそういう勉強会をやりたいので、説明に来てほしい」というお話も本日いただいております。「t e t o r u」の効果かなと考えておりますが、様々なところで、場面

で説明をし、ご理解をいただきながら進めてまいればと考えております。

私からの報告は以上になります。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告に関しまして、ご質問ご意見等がありましたらお願いいたします。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 内容についてではないのですが、確認です。今もご説明いただいたところもそうですが、用語集のところも「飯田のキャリア教育」で通していくわけですね。

この間、キャリア教育推進委員会に出ていた資料では、「飯田型キャリア教育」という言い方で使われていましたが、今後は全部「飯田のキャリア教育」という形で通していくという確認でよろしいですか。

○教育長（熊谷邦千加） 秦野教育次長。

◎教育次長（秦野高彦） 今、「飯田のキャリア教育」とつけているのは、我々関わっている人間からすると、飯田型キャリア教育っていうのは生き方教育だという認識が持てるんですけども、今、世間一般からするとキャリア教育って職業教育という形でイメージがついてしまっています。私どもとしては、飯田のキャリア教育というふうに呼んでいるのは、もう少し端的に表した形で表現できないかというふうに考えております。飯田型キャリア教育と呼んでいたのをキャリア教育という部分が生き方教育であるっていうところを理解していただける言葉に移行できないかというふうに考えています。

なので、「飯田のキャリア教育」も、ご相談差し上げながら、「飯田が目指しているものはこういうもんですよ」っていうような内容をキャッチフレーズのように使えるような言葉に変えたいと考えています。その過渡期として今、「飯田のキャリア教育」っていう形の言葉を使わせていただいております。

○教育長（熊谷邦千加） キャリア教育のところで使うときには、まだ「飯田型キャリア教育」という名前になっていると思いますが、あり方へ行くと今は過渡期で「飯田のキャリア教育」と、2つの言葉がきっと場によって使われておりますが、ご承知おきいただけたらなと思います。間際らしくて申し訳ありません。

さらにございますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） では、ご発言がないようでしたら、後でまたもう一度お聞きしますの
で、次へ進みたいと思います。

(4) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （4）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

生涯学習・スポーツ課から報告はありますか。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） 特にありません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(5) 文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（5）「文化財保護活用課関係報告事項」。

文化財保護活用課、報告はございますか。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 特にありません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(6) 公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（6）「公民館関係報告事項」。

上沼飯田市公民館副館長。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） 本日、皆様のお手元に公民館から3つの事業に関するチラシを2枚配布させていただきました。

1つ目が高校生講座「東北スタディツアー」の募集チラシでございます。

同講座ですが、高校生が地域への理解を深めるふるさと学習、また東北の震災復興の取組に学ぶ現地学習、それらを振り返る学習において、様々な取組やそれに関わる人々の思いに触れる学習活動を、高校生の主体性や協働的な学びを大切にしながら実施することで、地域に愛着と誇りを持ちながら、広い視野で自信や地域のあり方を考えることができる、そのような人材を育みたいという目的で、例年実施している事業でございます。

現在、飯田下伊那の高校にチラシを配布させていただき、参加者の募集を行っているところでございます。

東北スタディツアーは、7月20日から学習会を開催し、8月9日から11日にかけて東北での現地活動をする予定であります。その後に振り返り学習を行いまして、11月に学習報告会を実施したいと考えております。

なお、下半期は、「カンボジアスタディツアー」を予定しておりまして、こちらにつきましては秋頃に募集をかけ、事前学習をしっかりと行った上で3月20日から26日の間で現地

学習をしたいと、その予定で考えております。

もう一方のチラシですが、「I I D A h a p p i n e s s L a b .」と「ちい活 中高生ラボ」のチラシを配布させていただきました。これはどちらも今年度からの新規事業でございます。ぜひ気楽に参加していただきたいという思いからこのような少しかわいらしいネーミングとなっております。

「I I D A h a p p i n e s s L a b .」ですが、これは市民の方に集っていただき、自分のこと、また日常のこと、地域のことなどを自由に語り合う場を新たに公民館がつくり、参加者の思いを共有しながら同じ思いの仲間をつくったり、また新しい取組につなげていくようなムトスぷらざにおける新たな学習交流事業として展開するものでございます。

また「ちい活 中高生ラボ」ですが、「ちい活」とは地域活動の略語でございます。中学生や高校生が地域の活動をし、理解を深める学習活動として新たに実施をするものでございます。

本年度は、「地域の暮らしの中にある祭り」をテーマしまして、そこに息づく人・歴史・文化とのつながりなどに着目した学習や交流を通じて、自分の生き方を考える、そのような機会として開催をしたいと考えております。詳細は、チラシの内容をご確認いただければと思います。

現在、こちらについても両事業、参加者を募集しているところでございます。

公民館からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告に対しまして、ご質問ご意見がありましたらお願いします。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ご発言がないようでしたら次へ進みます。

（７）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （７）「文化会館関係報告事項」。

◎文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） 特にございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（８）図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（８）「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） では、図書館から2点お願いをします。

別紙、今日お配りしたチラシ、水色のものとオレンジのものをお配りしました。

水色ですけれども、「よむとす 子ども読書 読書っていいな プロジェクト」ちょっと長いんですけども、こちらは昨年度、子どもの本研究会と共催でゲド戦記の訳者の清水眞砂子さんのお話の映像を見て、子どもの読書について子どもたちが本に親しむためにどんなことができるだろうっていうことを、参加者のみんなで考えるワークショップを行いました。そのワークショップを行いましたところ、「このような形で子どもに関わるいろいろな方たちが子どもの読書について考える会をもう少し続けたい」というお話もありましたので、今年3回行う予定でおりますけれども、いろんな立場の方に集まっていただいて、子どもたちが本や読書に親しむためにどういうふうにしていったらいいかっていう話をするワークショップを行います。7月13日の土曜日に第1回を行う予定です。

もう一つのオレンジのチラシですけれども、こちらは駅前図書館の事業で今年度も駅前図書館で高校生を中心にした若い世代の皆さんに、本や図書館に親しんでいただく事業を行っていくものの一つです。

「もし、司書になって本を並べるとしたら…？」ということで、図書館は通常分類といって本の内容で本棚に本が並んでいるんですけども、駅前図書館はその数字のついた分類ではなくて、内容によって集めています。それを見ながら、分類ってどういうものかってことを知っていただきながら、参加してくださった方が紹介したい本ですとか、図書館を使う皆さんに手に取ってもらいたい本を選んで、その方の本棚をつくるという催しを行います。7月17日の水曜日の夕方5時半から行います。

この会が済みますと、駅前図書館につくられた本棚に並びますので、またご覧いただければと思います。

図書館からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） これらのことに対しまして何かご発言ございますか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、次に進みます。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （9）「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

◎美術博物館副館長（榎村洋介） 本日お配りいたしました7月の「びはくにゅーす」をご覧ください

ださい。

展示たくさんございますが、かいつまんでご説明したいと思います。

上から2番目ですが、文化トピック展としまして、「旧小笠原家書院築400周年 伊豆木小笠原家と旧小笠原家書院」の開催をしているということでございます。

重要文化財の小笠原家書院ですが、建築になってから400周年の記念の年ということでありまして、小笠原資料館にあります資料などをお借りしまして、美術博物館の文化展示室でトピック展示を開催するというところでございます。

それから7月20日から8月18日ですけれども、飯田美術博物館の常設展示で菊慈童の展示も行うということです。1年に1回菊慈童の作品を公開するということになっていますが、今年はこの7月20日から8月18日ということでございますので、ご覧いただければと思います。

それから一番下にいきまして、夏休み期間、5館スタンプラリーというものを7月20日から8月25日に開催いたします。夏休み期間に飯田市にあります5つの施設を見ていただきまして、そして見ていただいた方にささやかですがプレゼントをお渡しするというのをやっております。場所は、飯田市美術博物館と飯田市考古博物館、秀水美人画美術館、上村まつり伝承館「天伯」、遠山郷土館「和田城」でございます。

裏面に行きまして、考古博物館ですけれども、夏休み期間に入りますと「ワクワク考古塾」ということで、ものづくり体験などを行ういろいろな企画を考えております。7月28日は「玉づくり工房」、それから「古代のお金づくり」、それから8月4日は「古代クッキング」などを予定しているということでございます。

それから美術博物館で行う「ワクワクびはくで夏休み」、これはコロナ前は「美博まつり」という名前で開催しておりましたが、コロナ後に「ワクワクびはくで夏休み」という名前に変えておりますけれども、今年は8月11日に予定をしております。予約開始は7月23日ということであります。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、報告に対しまして、何かご発言ございますか。

◇教育委員（三浦弥生） 質問を。

○教育長（熊谷邦千加） どうぞ、三浦委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） 菱田春草の常設展示で菊慈童が7月20日から8月18日、菊慈童、年に1回というお話が今ありましたけれども、10月5日から菱田春草の生誕150周年記念特別展が予定されているかと思うんですが、そこでは菊慈童は出ないっていう感じでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 槇村副館長。

◎美術博物館副館長（槇村洋介） 実は、今年春草の菊慈童ですが、この私ども特別展期間中は福井県の美術館で春草の特別展がございまして、そちらに出品をするということになっておりますので、その関係で今年は少し早い日に菊慈童を展示するということになっております。

◇教育委員（三浦弥生） こちらの記念特別展のときにはないということですか。

◎美術博物館副館長（槇村洋介） そうです。私どもの特別展は違うものをお借りして展示をするということになっていきますので、菊慈童自体は福井県の美術館の大きな展覧会へお貸しするということでございます。

◇教育委員（三浦弥生） はい、分かりました。ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） よそからまた素晴らしい作品を借りて展示するということですね。

◎美術博物館副館長（槇村洋介） そうです。東京国立近代美術館から四季山水画卷をお借りして、それを中心に展示をいたしたいと考えております。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

学生と特別展のときには菊慈童を見に行こうねって話をしていたもので、すみません。

◇教育委員（野澤稔弘） 福井まで行けばいい。

◇教育委員（三浦弥生） はい、ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） ほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（10）歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは（10）「歴史研究所関係報告事項」。

牧内歴史研究所副所長。

◎歴史研究所副所長（牧内 功） それでは本日お配りしました6月1日発行の歴研ニュースの130号をご覧いただければと思います。

表紙ですけれども、今年度各研究員が取り組みます飯伊地域での研究や自身の研究テーマなど研究計画につきまして掲載しております。

開きまして2ページですけれども、今年度4月から就任しました伊坪達郎所長の挨拶文と7月20日開催予定のワークショップの概要を載せております。

3ページは、リレーエッセイと9月7・8日と今年度地域史研究集会を恒川官衙遺跡に

関する内容で開催する予定ですが、その概要を書いています。

最終の4ページでございますが、今月行います来週になりますが、22・23日の開催の飯田アカデミア第103講座と明後日になりますが、定例研究会の内容についてと、あとは6月・7月の歴研ゼミ等の開催日程についてそれぞれ掲載してございます。

また時間のあるときにお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ただいまの報告に対しまして、ご質問、ご意見ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、では、次へ進みます。

（11）今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） （11）今後の日程について。

松下学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼総務係長（松下弘毅） 今後の日程についてであります。レジュメ資料の2ページ目、2面になりますけれども、（11）の今後の日程を見ていただきます。

6月18日火曜日に第2回の飯田市校長会が行われます。教育長と教育長職務代理者の出席をお願いいたします。

7月2日火曜日に第2回の飯田市教頭会が開催されます。こちらも教育長と教育長職務代理者のご出席をお願いいたします。

7月12日金曜日になりますが、第28回三遠南信教育サミット、蒲郡市で開催されます。教育委員の皆様の全てのご出席をお願いしたいと思います。日帰りになる予定です。

7月24日水曜日です。7月の教育委員会の定例会になりますので、ご予定をしてください。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 日程に対して、何かご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

では、全体を通して何かご発言できなかったことやご質問等ありましたら。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程第10 閉 会

○教育長（熊谷邦千加） では日程の第10、「閉会」。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了といたします。これをもちまして閉会といたします。

ありがとうございました。

閉 会 午後3時57分